

「超短波放送（FM放送）における同一周波数放送波中継
による同期放送に関する調査検討」

第2回調査検討会 説明資料

3. 屋外試験に向けて

(株)NHKテクノロジーズ

3. 屋外試験に向けて

(1) 「FM中継局－FM実験局」を活用した屋外試験

- ・KRY豊北実験局＋KRY長門局の電波が交差するエリアでの試験
- ・室内試験では、DUが5dB以上あれば評価4⇒DU5dB以下となるエリアを確認
- ・遅延時間を変化させて固定点測定、及び移動測定（位置情報、端子電圧、PSER）を行う

(2) 「FM中継局－FM中継局1」及び「FM中継局2－FM実験局（FM回り込みキャンセラー装置が設置された実験試験局）」を活用した屋外試験

- ・KRY豊北実験局＋KRY豊田局の電波が交差するエリアでの試験
- ・室内試験では、DUが0dBでも遅延時間を5 μ s以内に調整すれば評価4
⇒DU5dB以下となるエリアを確認
- ・遅延時間を何パターンか変化させて固定点測定、及び移動測定（位置情報、端子電圧、PSER）を行う

(3) FM中継局から多方向（「FM中継局－FM実験局1」及び「FM中継局－FM実験局2」）で「FM回り込みキャンセラー装置」が設置された実験試験局を活用した屋外試験

- ・KRY豊北実験局＋KRY新実験局①、又はKRY新実験局①＋KRY新実験局②局が交差するエリアでの試験
- ・室内試験では、DUが0dBでも遅延時間を5 μ s以内に調整すれば評価4
⇒DU5dB以下となるエリアを確認
- ・遅延時間を何パターンか変化させて固定点測定、及び移動測定（位置情報、端子電圧、PSER）を行う

(1) 「FM中継局－FM実験局」を活用した屋外試験



(2)「FM中継局－FM中継局1」及び「FM中継局2－FM実験局(FM回り込みキャンセラー装置が設置された実験試験局)」を活用した屋外試験



(3) FM中継局から多方向(「FM中継局－FM実験局1」及び「FM中継局－FM実験局2」)で「FM回り込みキャンセラー装置」が設置された実験試験局を活用した屋外試験①



